

### 3. 機能及び規模の設定

#### 3.1. 現総合体育館の施設配置及び現状の施設運営状況

##### 3.1.1. 現総合体育館の施設配置

現総合体育館は、敷地西側の市道（幅員 11.5m）を前面道路としてそこからの主動線を確保、南側の市道（幅員 9m）との交差部の市民広場（面積約 1,400 m<sup>2</sup>）から道路沿いに南東側の広場（面積約 500 m<sup>2</sup>）、駐車場は、北側（96 台）を中心に、東側（31 台）、西側（7 台）の計 133 台を確保、駐輪場は東側と西側に整備されています。

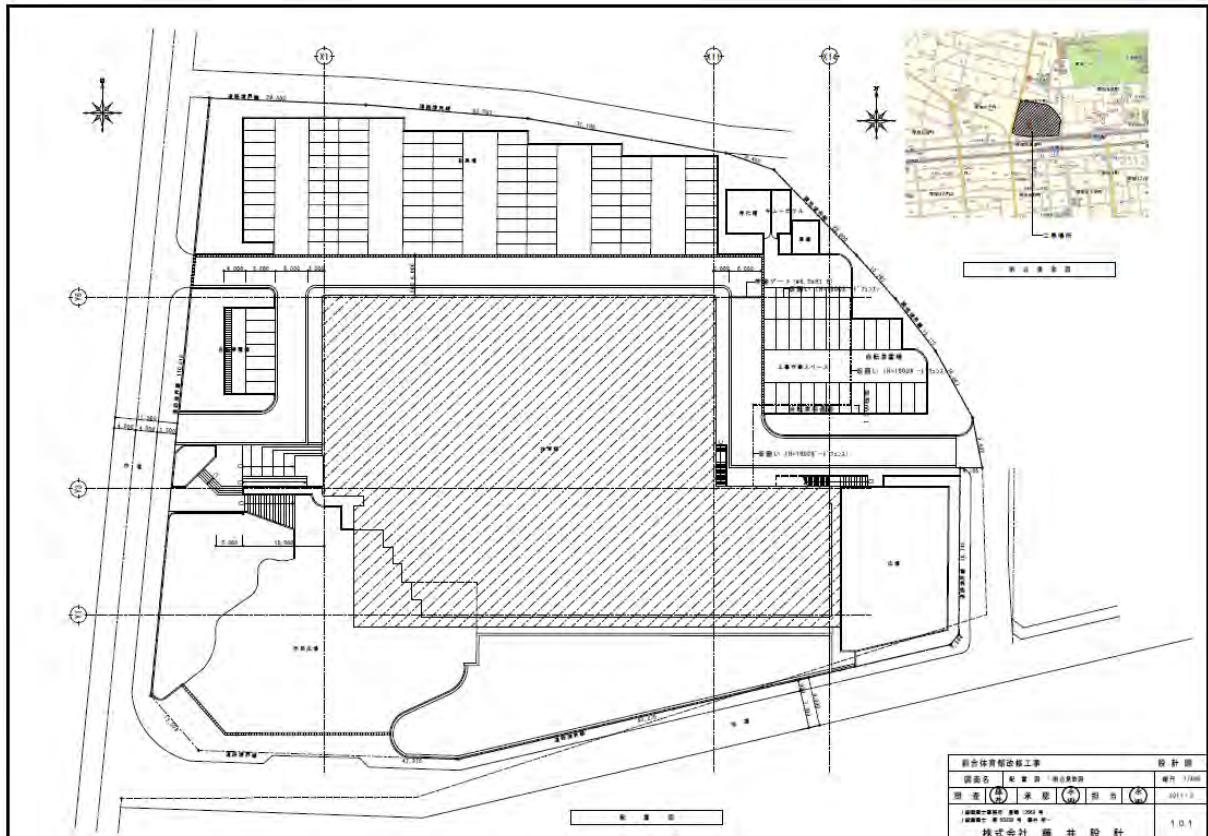


図 現総合体育館の施設配置

現総合体育館において、利用可能なスポーツ種目と施設内容は以下の通りです。

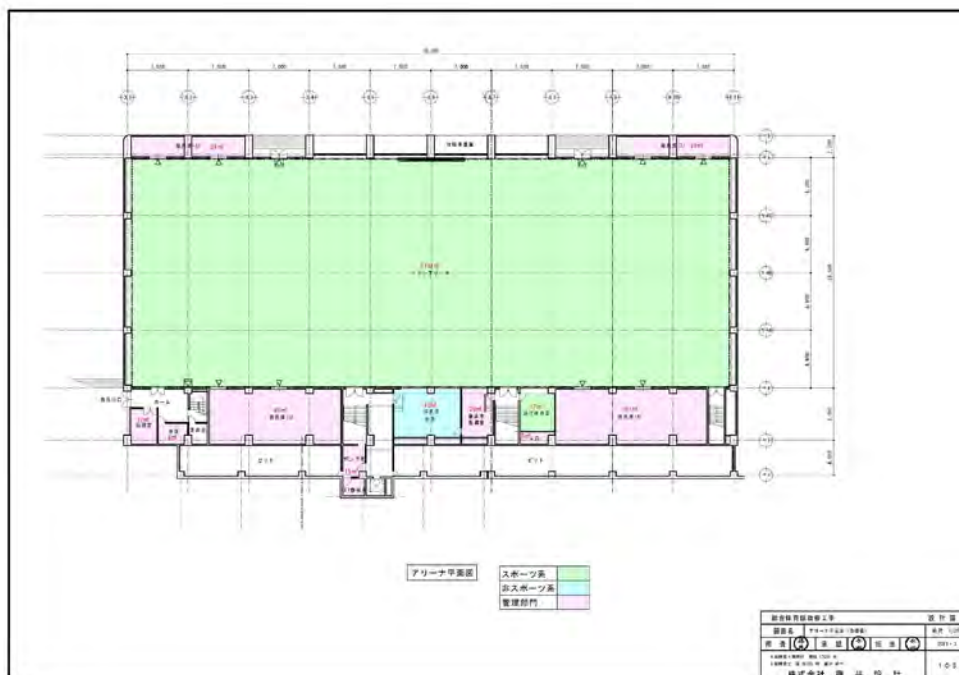
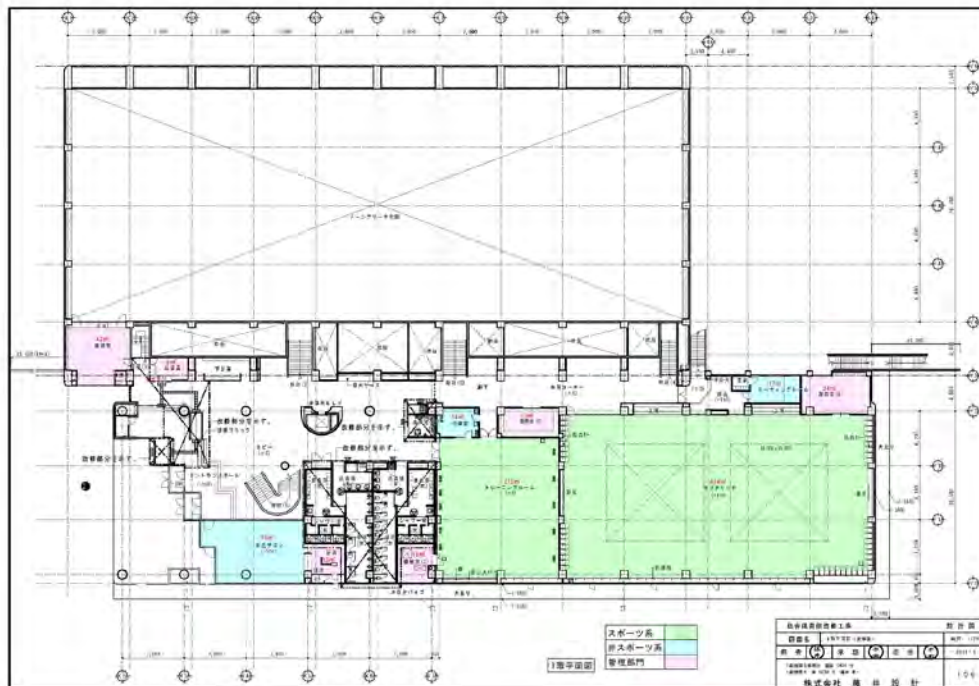
表 現総合体育館の利用種目と施設内容

利用種目	卓球 26 台、バドミントン 12 面、バレーボール 4 面、テニス 2 面、バスケットボール 4 面、ハンドボール 2 面、剣道、柔道、その他
施設内容	<p>地階：メインアリーナ、役員室、放送室、幼児体育室</p> <p>1 階：サブアリーナ、ミーティングルーム、トレーニングルーム、更衣室、シャワー室、トイレ、身障者トイレ</p> <p>2 階：大会議室、小会議室、資料健康室、トイレ、観覧席（固定 288 席）、ランニングコース（1 周 200 メートル）</p> <p>身障者用エレベーター ※空調設備未整備</p>

### 3. 機能及び規模の設定

また、現総合体育館の所要室を、スポーツ系、非スポーツ系、管理部、共用部に区分すると、延べ床面積のうち、約55%をスポーツ系が占め、このうち、最も広いスペースは、メインアリーナです。

なお、非スポーツ系は延べ床面積の約6%、管理部門は約8%、共用部は約32%であり、人口10万人程度の自治体の総合体育館（以下、「類似施設」という）と同様に、スポーツ系及び共用部の面積割合が多くなっています。



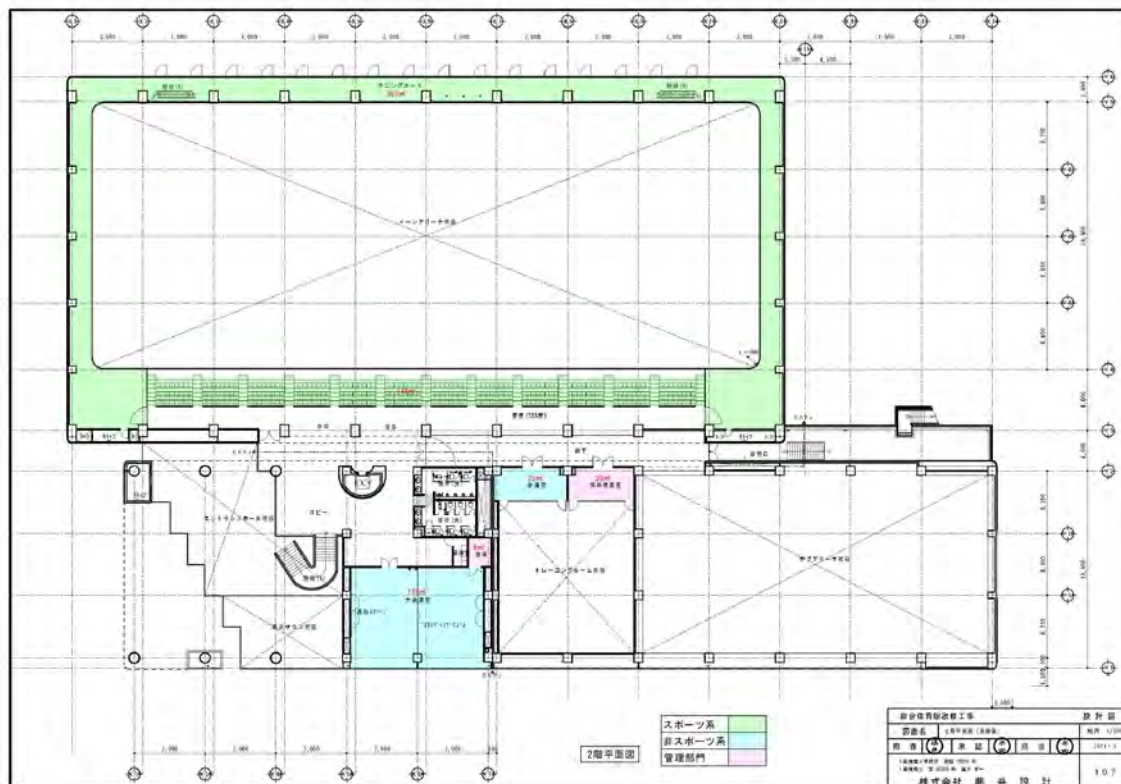


図 現総合体育館の平面、諸室の面積

表 体育館の諸室の面積割合・比較

体育館	人口 オープン	延べ床面積	諸室の面積と延べ床面積に占める割合			
			スポーツ系	非スポーツ系	管理部	共用部
各務原市 現総合体育館	約 147,000 人 1983 年度 (※オープン時 市内人口 約 107,000 人)	約 5,757 m <sup>2</sup>	3,147 m <sup>2</sup> 55%	322 m <sup>2</sup> 6%	456 m <sup>2</sup> 8%	1,832 m <sup>2</sup> 32%
犬山市体育館 (エナジーサポ ートアリーナ)	約 74,000 人 2016 年度	約 6,500 m <sup>2</sup>	3,431 m <sup>2</sup> 53%	391 m <sup>2</sup> 6%	714 m <sup>2</sup> 11%	1,964 m <sup>2</sup> 30%
袋井市総合 体育館 (さわや かアリーナ)	約 88,000 人 2020 年度	約 7,769 m <sup>2</sup> (付帯施設 含む)	4,553 m <sup>2</sup> 59%	470 m <sup>2</sup> 6%	771 m <sup>2</sup> 10%	1,975 m <sup>2</sup> 25%
江南市体育館 (KTX アリーナ)	約 100,000 人 2018 年度	約 8,300 m <sup>2</sup>	4,491 m <sup>2</sup> 54%	332 m <sup>2</sup> 4%	1,051 m <sup>2</sup> 13%	2,426 m <sup>2</sup> 29%
長浜市北部地域 総合体育館	約 117,000 人 2020 年度	約 5,580 m <sup>2</sup>	3,617 m <sup>2</sup> 65%	256 m <sup>2</sup> 5%	342 m <sup>2</sup> 6%	1,365 m <sup>2</sup> 24%

## 3.1.2. 施設運営状況

現総合体育館と地区体育館の、指定管理者の運営による令和元年度における維持管理コストを下表に示します。令和元年度の年間維持管理コストは、現総合体育館が約 5,594 万円、地区体育館が 658 万円でした。

現総合体育館については、セコムやエレベーターの管理会社等の委託料が占める割合が最も大きく（27.3%）、次いで光熱水費が大きな（19.1%）割合を占めています。

地区体育館については、スタッフに対する賃金が占める割合が最も大きく（31.6%）、次いで光熱水費が大きな（25.2%）割合を占めています。

ここで、市の負担については、維持管理コストから施設利用料を引いた額となるため、現総合体育館については 3,926 万円、地区体育館については 305 万円、合計 4,230 万円が年間の体育館維持費となります。

## 【歳出】

表 現総合体育館及び地区体育館の維持管理コスト一覧（令和元年度）

単位：円

科 目	現総合体育館		地区体育館		合 計	
給料手当	8,955,509	16.0%	0	0.0%	8,955,509	14.3%
福利厚生費	1,457,672	2.6%	8,232	0.1%	1,465,904	2.3%
賃 金	4,682,749	8.4%	2,078,907	31.6%	6,761,656	10.8%
消耗品費	841,266	1.5%	341,507	5.2%	1,182,773	1.9%
燃 料 費	0	0.0%	14,115	0.2%	14,115	0.0%
印刷製本費	83,800	0.1%	102,600	1.6%	186,400	0.3%
光熱水費	10,685,274	19.1%	1,659,575	25.2%	12,344,849	19.7%
修繕料	4,648,971	8.3%	256,958	3.9%	4,905,929	7.8%
通信運搬費	175,424	0.3%	141,003	2.1%	316,427	0.5%
手 数 料	46,257	0.1%	22,690	0.3%	68,947	0.1%
委 託 料	15,278,784	27.3%	695,208	10.6%	15,973,992	25.6%
賃 借 料	302,500	0.5%	137,250	2.1%	439,750	0.7%
消耗什器備品費	93,258	0.2%	70,000	1.1%	163,258	0.3%
租税公課	2,279,729	4.1%	302,071	4.6%	2,581,800	4.1%
管 理 費	6,405,954	11.5%	751,536	11.4%	7,157,490	11.4%
合 計	55,937,147	100.0%	6,581,652	100.0%	62,518,799	100.0%

## 【歳入】

表 現総合体育館及び地区体育館の施設利用料収入（令和元年度）

単位：円

現総合体育館	地区体育館	合計
16,681,870	3,536,380	20,218,250



## 3.2. 各務原市のスポーツ施設における課題

2.1 及び上位・関連計画、アンケート・ヒアリング結果等より、新総合体育館が応えるべき課題としては以下があげられます。

### ○大規模大会等に対応した施設整備が必要

現総合体育館は、武道や各種スポーツ競技の公式戦で利用できる規模・仕様ではないため、行えるスポーツ種目・用途が限られています。

### ○多様なニーズへの対応が必要

子どもから高齢者まで幅広い年齢の市民が、個人・団体共に利用できるスポーツ施設が必要とされています。また、競技スポーツの利用だけではなく、健康づくり運動や高齢者の介護予防運動、さらには文化活動にも利用できる施設が求められています。

スポーツや文化活動を通じ、交流の場としても期待されます。

### ○効率的な整備・管理運営が必要

本市の財政状況も踏まえ、整備費用を抑える工夫や、補助金等による建設に有意な財源等の活用が不可欠です。さらに、管理運営においては、民間の力を活用した、収益性も考慮された、効率的かつ持続的な運営の仕組みを検討していく必要があります。

## 3.3. 新総合体育館のあり方及び機能

課題より、新総合体育館は、「誰もが快適に使用でき、健康づくりを楽しむ、にぎわいと交流、安心安全の拠点」を目指す施設とします。

### 「誰もが快適に使用」……「競技機能」、「観覧機能」、「管理・サービス機能」

ユニバーサルデザインに配慮した設計により、子どもから大人、高齢者や障害を持った方、男女の隔てなく、快適に使用できる施設として整備します。また、一人の利用も団体での利用も、スポーツを「する人」、「見る人」、「関わる人」等様々な立場の人が必要な機能・設備を備えます。

### 「健康づくりを楽しむ」……「イベント機能」、「健康増進機能」

スポーツだけでなくレクリエーションの利用により、市民が楽しみながら日常的に体を動かすことで健康増進につながるような体育館として整備します。

### 「にぎわいと交流」……「交流機能」

これまでの市内の体育館では対応できなかった競技スポーツの大規模大会としての利用により、にぎわいと交流を生み出します。

### 「安心安全の拠点」……「防災機能」

防災拠点としての機能の持たせることで、市民の安心安全のよりどころとなる拠点として整備します。

### 3.4. 新総合体育館の施設内容

新総合体育館は、建設後長期にわたり利用されることから、機能的かつ快適な施設として整備することが望まれます。新総合体育館の利用用途に応じた必要機能・設備を整備します。

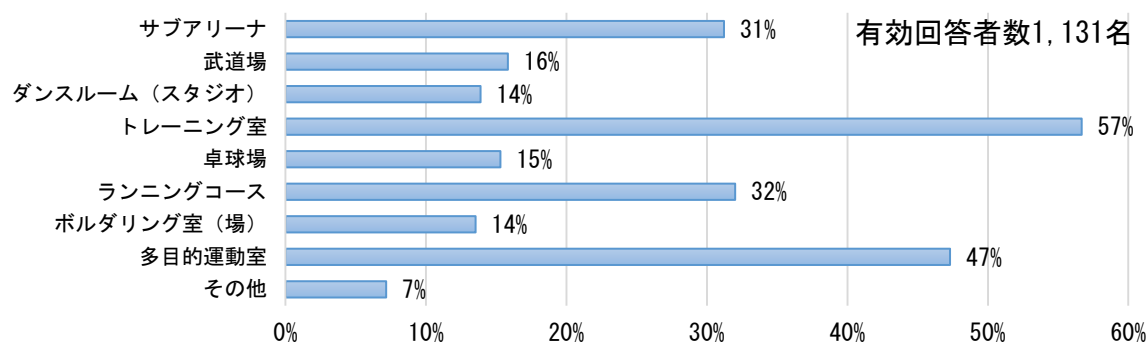
新総合体育館を利用する競技スポーツ科目等については、現在の市民体育館の利用状況から下表のように想定します。

表 新総合体育館の利用用途と必要施設の想定

分類	体育館を利用する想定競技種目	必要となる機能・設備例
ボールゲーム	バレーボール	コート、更衣室、シャワー室、トイレ、器具庫、スタッフルーム、給湯室、医務室、放送室、ラウンジ等
	ソフトバレー	
	卓球	
	バスケットボール	
	バドミントン	
	ソフトテニス	
	ハンドボール	
武道	空手道	武道場、更衣室、シャワー室、トイレ、器具庫、スタッフルーム、給湯室、医務室、放送室、ラウンジ等
	フルコンタクト空手道	
	少林寺拳法	
	太極拳	
	剣道	
	合気道	
	柔道	
	銃剣道	
その他スポーツ	フラダンス	ダンスルーム、多目的運動室、トレーニング室、更衣室、シャワー室、トイレ、器具庫、スタッフルーム、給湯室、医務室、放送室、ラウンジ等
	軽スポーツ	
	新体操	
	体操	
	舞踊	
	バトントワリング	
その他	会議	会議室、放送設備(室)、アリーナ(広い運動スペース)、休憩スペース、トイレ、スタッフルーム、給湯室、医務室等
	放送設備	
	あすなる教室(学校教育課)	
	親子のスポーツテスト(健康管理課)	
	岐阜県障がい福祉事業所連絡会	
	市特別支援教育連合スポーツ大会(市特別支援教育推進協議会等)	
	各務原市民生委員児童委員協議会	
	スポーツレクリエーション大会	
かかみがはらっ子大集合(市子ども会育成協議会)		

また、市民アンケートより、メインアリーナ以外のスポーツ施設及びその他付属設備としては以下の希望があります。

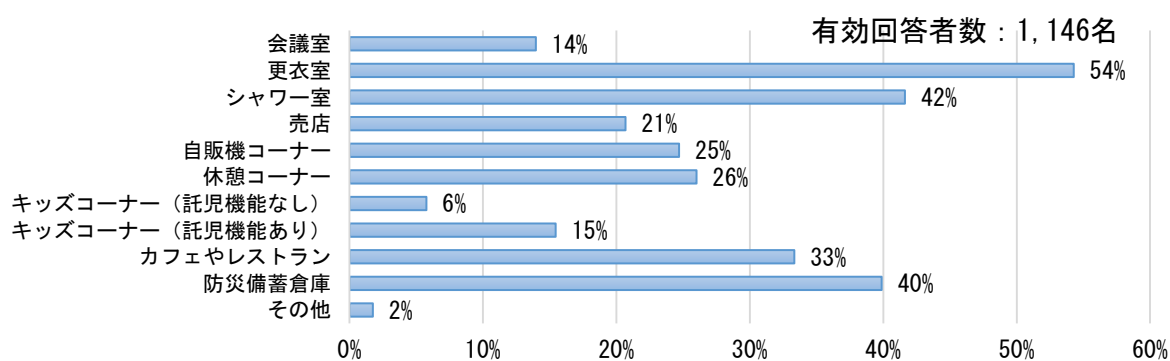
○メインアリーナ以外のスポーツ施設



<その他回答>

アスレチック/広い和太鼓練習場/ジャグジー/ウォーキングコース/キッズアスレチック/トランポリン/ヨガ/女性でも入りやすいトレーニング室/プール (トレーニング用。水泳競技用。幼児から小学生が利用できるちょっとした遊具のあるプール)/テニスができる所/子供が遊べる施設 (室内公園、遊具室) /バッティングセンター/ボウリング場/カラオケルーム/親子等でも気軽に来られるような施設/浴場等の運動後の充実施設/サイクリングコース/防音スタジオ/時代に合わせて10年・20年先に対応できるようなスペース/流行のスポーツ対応/ボルダリング/ランニングコース/スカッシュ/スケート/カーリング/アイスホッケー/フットサル場/音楽室

○付属設備



<その他回答>

災害時に使えるかまどベンチやマンホールトイレ/その他災害時にも活用できそうな設備 (台所などの水まわり。調理室 (料理教室等日常利用も想定)) 雨の日や猛暑日などに遊べる場所/防災関係/非常用トイレ/河川環境楽園/文化発表ができるミニルーム/各スポーツ施設やキッズスペースを利用している子供を見守れるような配置のカフェ・レストラン/格安で食事・飲み物が買える場所/子供～高校生・老人 (年金)・無職の人向けに対応/大規模大会時等全国から来た人が安く宿泊できる設備/銭湯/非常時でも使えるスマホ・他機器の充電器を多数/カフェとレストラン、売店が一緒になっているような店

### 3. 機能及び規模の設定

利用用途に応じた必要となる機能・設備について、上記を踏まえ、下表の通り整理しました。

表 導入機能別施設

導入機能	導入施設
競技機能、イベント機能	メインアリーナ、サブアリーナ、武道場、選手控室、テニス、フットサル
観覧機能、イベント機能	観覧席
管理・サービス機能	更衣室、シャワー室、浴場、トイレ、手洗い場、器具庫、スタッフルーム、給湯室、医務室、放送設備（室）、宿泊施設
健康増進機能、イベント機能	トレーニング室、多目的運動室、ランニングコース、ダンスルーム、ウォーキングコース、ボルダリング、キッズルーム、アスレチック、ヨガ、トランポリン、音楽室・演奏スペース、調理室
交流機能	ラウンジ、カフェ、レストラン、売店、休憩スペース（ベンチ）、会議室、広場
防災機能	防災備蓄倉庫、災害設備、避難所、避難場所、非常用トイレ（マンホールトイレ）、かまどベンチ、非常電源

上記の導入施設について、施設規模や併用の可能性等により、スポーツ系、非スポーツ系、管理部、共有部に分類し、その概要を整理します。

#### 3.4.1. スポーツ系

##### (1) メインアリーナ

○メインアリーナ：大規模なスポーツ大会の主会場やスポーツ観戦の会場として利用するほか、一般利用にも提供することを想定し、以下の施設規模を確保します。

各競技規則に定められた規格を確保し、競技や練習の際により安全に利用できる規模とします。

スポーツ以外の集会等の利用を考慮し、音響設備をはじめ、可動ステージや吊りバトン、折りたたみ椅子の設置や競技への風の影響を考慮した空調設備の付帯を検討します。

災害時には、避難者の避難スペースや災害支援物資の集積場所として活用します。物資の移動を行いやすいように外部からのアクセス経路を確保し、搬出入用の出入口を設置します。

- ・フットサル：2面
- ・バレーボール：4面
- ・バスケットボール：3面
- ・ハンドボール：2面
- ・ソフトテニス：3面
- ・卓球：16面
- ・バドミントン：18面
- ・体操の大会開催



- 観客席：観客席は固定式で2階部分に約1,140席程度を設置します。大規模イベント等の開催時には、仮設のパイプ椅子等の可動観客席等で対応するものとします。例えば、バスケットボールをセンターコートで設置し、周囲に仮設の観客席を配置した場合には、可動席として約1,840席の確保を想定します。
- 選手控室：隣接する会議室（ミーティングルーム）等を選手控室として活用します。

## (2)サブアリーナ

- サブアリーナ：スポーツ大会時には、練習場としてメインアリーナの補完的な役割を担う施設であるとともに、日常スポーツ活動のフロアとして多目的に利用します。

各競技規則に定められた規格を確保し、競技や練習の際により安全に利用できる規模とします。

サブアリーナはメインアリーナとの連携を考慮し、以下の施設規模を確保するとともに、空調設備の付帯を検討します。

災害時には、避難者の避難スペースや災害支援物資の集積場所として活用します。物資の移動を行いやすいように外部からのアクセス経路を確保し、搬出入用の出入口を設置します。

- ・フットサル：1面
- ・バレーボール：2面
- ・バスケットボール：1面
- ・ハンドボール：1面
- ・ソフトテニス：1面
- ・卓球：8面
- ・バドミントン：8面

- 観客席：観客席は固定式で2階部分に約560席程度を設置します。大規模イベント等の開催時には、仮設のパイプ椅子や可動観客席等で対応するものとします。
- 選手控室：隣接する会議室（ミーティングルーム）等を選手控室として活用します。

## (3)武道場

柔道、剣道、空手などの競技に対応できるスペースの確保を検討します。

災害時には、避難者の避難スペースとして活用します。

## (4)トレーニング室

利用者の健康体力の保持増進を目的とし、各種トレーニングマシンによる運動スペースとします。一部にストレッチ運動などが可能なスペースを確保します。

## (5)ランニングコース・ウォーキングコース

健康・体力づくり、雨天時及び冬季の利活用を考慮して設置します。

メインアリーナ2階部分の観客席の周囲に設置します（1周約250m）。

#### (6)キッズルーム

キッズルームは、幼児を連れた保護者が安心して子供と使用することができる運動の場、体力づくりの場として設置します。

災害時には、妊婦や幼児を抱える母親など、災害弱者が避難できるスペースとしての機能を検討します。

#### (7)多目的室

ミラー設備などにより、ダンスやエアロビクスなど様々なスポーツニーズに対応した施設とします。

また、壁面にはボルダリングの設備を設置するなど、特殊なスポーツに対応可能な施設として整備することを検討します。

さらには、音楽スタジオとしての利用も想定します。

災害時には、妊婦や幼児を抱える母親など、災害弱者が避難できるスペースとしての機能を検討します。

### 3.4.2. 非スポーツ系

#### (1)会議室・研修室

スポーツ指導者やスポーツボランティアの研修会や講習会、さらに音楽等文化活動の場としても広範囲に利用することのできる施設とします。

災害時には、妊婦や幼児を抱える母親など、災害弱者が避難できるスペースとしての機能を検討します。

### 3.4.3. 管理部

- ・各諸室には空調設備を計画します。
- ・機械・設備室を新総合体育館の外に配置するなどの方法を検討し、コスト縮減に努めます。
- ・選手や観客、一般利用者、機材搬入等の動線に配慮した施設計画を目指します。
- ・更衣室、器具庫、スタッフルーム、給湯室、医務室等必要施設を整備します。
- ・事務室には救護室を併設し、隣接して授乳室を配置するものとします。
- ・放送設備（室）は、イベントや大会等様々な利用を想定し、全館及び部屋単位での放送ができるようにします。
- ・災害時における対応をはじめ、環境面では太陽光発電設備、自家発電設備（非常電源）、雨水再利用設備、防火水槽、調整池、防災備蓄倉庫、災害設備、非常用トイレ（マンホールトイレ）、かまどベンチ等の整備を検討します。
- ・長期避難に対応できるよう、プライバシー保護の間仕切りなど避難生活必需品や保存食料、避難活動救助関係備品などが備蓄できるよう十分なスペースの確保を目指します。

#### 3.4.4. 共用部

- ・ユニバーサルデザインに配慮し、エレベーターや多目的トイレを設置します。エレベーターは車椅子使用者に対応し、分かりやすい位置に設置します。
- ・トイレは必要十分な数を計画し、オストメイト対応の多目的トイレの整備を検討します。
- ・市民の憩いと交流の空間を創造し、気軽に利用できるオープン形式のラウンジを検討します。
- ・市民が快適に施設を利用できるよう、開放的でゆとりのあるホールやギャラリー、ロビーを計画します。
- ・ラウンジ、カフェ、レストラン、売店、休憩スペース（ベンチ）の整備を検討します。
- ・来館者に、分かりやすい施設サイン表示とします。
- ・建物外構には、エントランス広場や緑地を計画し市民に憩いの場を提供します。また、広場は災害時の避難場所としての活用も期待します。
- ・必要な各室は同等規模の体育館の事例を参考に各室の概ねの規模を設定します。

#### ○駐車場・駐輪場

- ・駐車場については、大会時にも対応可能である台数を確保するものとし、駐車台数は最低 600 台程度を確保するものとして想定します（アンケートより、大会時の想定必要駐車場台数としての約 500 台にトレーニング等利用者の約 100 台を想定）。
- ・また、大型バス用駐車スペース、障害者用駐車スペースを確保します。
- ・駐輪場については、多くの市民の利用が見込まれるため、建物に近接し十分なスペースを整備します。
- ・災害時の避難先としての活用も想定し、十分な広さを確保します。

## 3.4.5. 主要施設規模

各競技の競技規則における規模等を参考に、要望や他事例の状況を踏まえて、以下のとおり施設規模を想定しています。なお、ここで示す施設規模は今後の基本計画において変動しますが、現段階では各部屋の規模設定及び全体面積に極端に影響が出ない範囲とするための概ね妥当な規模を設定するものです。

現総合体育館における大会の開催は、スポーツ協会の各団体による協議により、実施されていることから、新総合体育館においても異なる種目の大会が重複することはないと考えます。そのため、最大公約数となる規模を基準とします。

例) バレーボール2面でハンドボール1面の対応が可能

表 想定施設規模一覧

分類	施設	想定床面積	概要
スポーツ系	メインアリーナ	約 3,420 m <sup>2</sup>	○固定観客席：約 570 m <sup>2</sup> (約 1,140 席) ○コート面積：約 2,850 m <sup>2</sup> (38m×75m) 以下の競技の対応が可能 ・フットサル：2面 ・バレーボール：4面 ・バスケットボール：3面 ・ハンドボール：2面 ・ソフトテニス：3面 ・卓球：16面 ・バドミントン：18面 ・体操の大会開催
	サブアリーナ	約 1,680 m <sup>2</sup>	○固定観客席：約 280 m <sup>2</sup> (約 560 席) ○コート面積：約 1,400 m <sup>2</sup> 以下の競技の対応が可能 ・フットサル：1面 ・バレーボール：2面 ・バスケットボール：1面 ・ハンドボール：1面 ・ソフトテニス：1面 ・卓球：8面 ・バドミントン：8面 ・空手・柔道・剣道：4面 (サブアリーナの半分を武道利用に想定。畳等を仮設で設置し対応する)

分類	施設	想定床面積	概要
	武道場等	約 400 m <sup>2</sup>	以下の競技の対応が可能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・空手：2面</li> <li>・柔道：2面</li> <li>・剣道：2面</li> </ul> ※相撲の土俵については、屋外の屋根付きのスペースに検討
	トレーニング室	約 850 m <sup>2</sup>	現総合体育館のトレーニングルーム約 213 m <sup>2</sup> 約 4 倍を想定
	ランニングコース・ウォーキングコース	約 630 m <sup>2</sup>	ランニングコース 1.2m幅×2レーン 1周約 250m アリーナ (38m×75m) を囲う客席 (奥行約 5mを想定) の外周に設置を想定 (想定総延長 256～265.6 m) ※延長は客席の配置等により変動する 雨天練習場として想定
	多目的室 (トランポリンや体操、ダンスやボルダリングを含む複数の種目及び音楽スタジオ等にも対応できるスペースを有するスペース)	約 280 m <sup>2</sup>	70 人程度収容可能なフィットネススタジオを参考に想定
	キッズルーム	約 100 m <sup>2</sup>	事例を参考に想定
	小計	約 7,360 m <sup>2</sup>	
	非スポーツ系	会議室・研修室	・20人規模の会議室 : 50 m <sup>2</sup> ×3部屋 約 150 m <sup>2</sup>
	小計	約 150 m <sup>2</sup>	
管理部	器具庫	約 1,210 m <sup>2</sup>	事例平均より総面積の 10% 程度と想定
	倉庫		
	事務室		
	放送室 (設備)		
	機械・設備室		
	防災備蓄倉庫等		



### 3. 機能及び規模の設定

分類	施設	想定床面積	概要
	スタッフルーム		
	医務室		
共用部	手洗い場	約 3,390 m <sup>2</sup>	事例平均より総面積の 28%程度と想定
	トイレ		
	シャワー室		
	浴場		
	更衣室		
	給湯室		
	ホール・ロビー等		
	廊下等		
	エレベーター		
	エスカレーター		
	ラウンジ		
	カフェ		
	レストラン		
	売店		
休憩スペース			
総面積		約 12,110 m <sup>2</sup>	—

以上のことから、建物延床面積は、約 12,110 m<sup>2</sup>程度が必要と考えられます。

なお、敷地規模については、建物のほか、駐車場・駐輪場や広場等について検討したうえで設定します。

## 3.5. スポーツ系施設の規模の設定根拠

スポーツ系施設の規模の設定について、他市町の事例の施設設定の考え方を参考に、使用団体のアンケート及びヒアリング結果も踏まえ、新総合体育館に整備する施設の機能や規模を想定します。

また、コート一つあたりの規模については国民体育大会の基準を参考とします。

観客席については、犬山市、袋井市、江南市の事例より、固定観客席をアリーナ面積の20%程度、1席当たり0.5㎡を想定します。

※面積について、江南市については、基本計画、基本設計の数値を参考にし、犬山市、袋井市については実際の数値を基準としています。

表 コート1面当たりの基準面積

	バレーボール	バスケットボール	ハンドボール	ソフトテニス	フットサル	バドミントン	卓球	相撲	柔道	剣道	空手	銃剣道	体操
1面当たり面積 (㎡)	680	950	1,240	780	1,050	150	160	50	170	200	200	170	2,200

表 スポーツ系施設の規模算定

諸室	犬山市体育館 (エナジーサポートアリーナ)		袋井市総合体育館 (さわやかアリーナ)		江南市体育館 (KTX アリーナ)		各務原市新総合体育館	
	人口：約74,000人、オープン：2016年度 規模想定	概要(考え方等)	人口：約88,000人、オープン：2020年度 規模想定	概要(考え方等)	人口：約100,000人、オープン：2018年度 規模想定	概要(考え方等)	人口：約147,000人、オープン：－ 規模想定	概要(考え方等)
メインアリーナ	1,760㎡  ○観客席：600席 車いすスペース6席  ○コート ・バレーボール3面 ・バスケットボール2面 ・バドミントン(卓球)8面 ・観覧席周囲にランニングコース(185m)(中履き)  ○その他 天井高：12.6m 1,200㎡ 空調完備		約1896㎡ (約48m×39m)  ○観覧席 ・観覧席固定：500席 ・観覧席可動式：約540席  ○コート ・バスケットボール：2面分 ・バレーボール：3面分 ・バドミントン：8面分	○市民大会等の各種スポーツ大会やスポーツ観戦の会場とする。 ○式典・講演会等の催しにも利用しやすいように観客席を配置する。 ○固定観客席はメインアリーナに面し配置する。 ○障害者用スポーツ(車椅子ダンス、バスケット等)に対応した施設とする。 ○ジョギング、ウォーキングを楽しめるよう、コースから施設内外への眺めに配慮する。 ○災害時は、避難しやすい構造とし、非常時の物資の搬出入を考慮した外部出入口を設置する。	約1,860㎡ (49m×38m)  ○コート ・バスケットボールコート(公式規格)：2面 ・バレーボールコート：3面  ○その他 ・アリーナに隣接して以下の施設を設置 ・会議室：72㎡程度(大会開催時に主催者役員室や大会本部室、審判控室などとして活用) ・医務室：30㎡程度 ・放送室：18㎡程度	○公式規定のバスケットボール観戦を行うための仮設席の設置をはじめ、多目的な利用が期待できるようにするため、49m×38mの規模とする。 ○観覧席は、現在の市民体育会館と同程度規模の固定1,000席以上を確保することが望ましい。 ○ランニングコース(観覧席外側)を設置する。 ○天井高は、国際バレーボール連盟や日本バレーボール協会主催の試合の規格である「コートの表面から12.5m以上」を確保する。 ○会議室は、可動間仕切りによって、36㎡(6m×6m)程度の会議室2室として使用できるように。	約3,420㎡  ○固定観客席：約570㎡(約1,140席)  ○コート面積：約2,850㎡(38m×75m) 以下の競技の対応が可能 ・フットサル：2面 ・バレーボール：4面 ・バスケットボール：3面 ・ハンドボール：2面 ・ソフトテニス：3面 ・卓球：16面 ・バドミントン：18面 ・体操の大会開催	以下のスペースの確保を検討(サブアリーナと分担)  アンケート結果より ・卓球場：2面 ・バドミントン：6面 ・フットサルコート：2面～4面  現総合体育館と同等以上の施設規模を想定 卓球26台、 バドミントン12面、 バレーボール4面、 テニス2面、 バスケットボール4面、 ハンドボール2面、  事例より、固定観客席をアリーナ面積の20%程度、1席当たり0.5㎡を想定

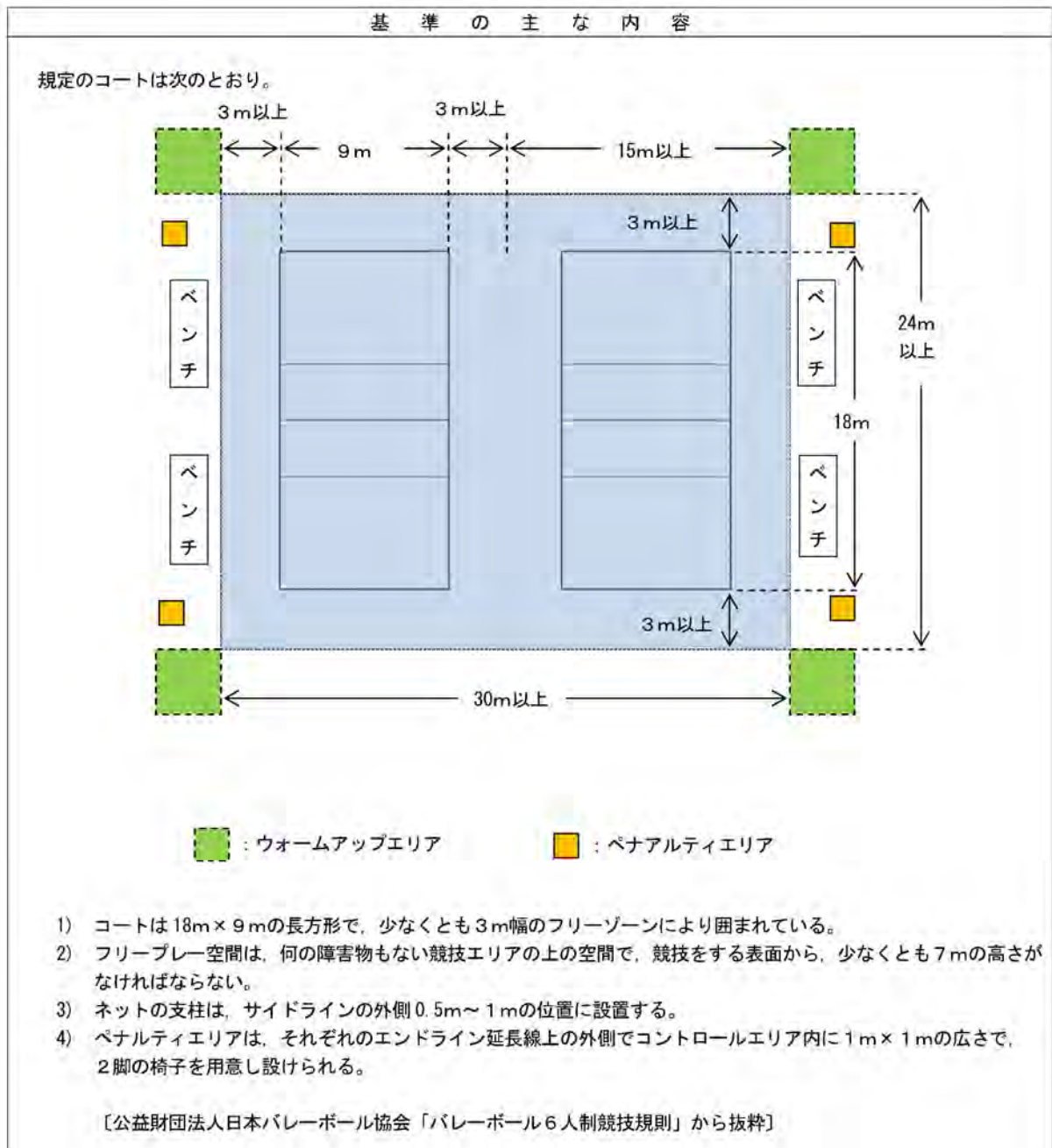
3. 機能及び規模の設定

諸室	犬山市体育館 (エナジーサポートアリーナ)		袋井市総合体育館 (さわやかアリーナ)		江南市体育館 (KTX アリーナ)		各務原市新総合体育館	
	人口：約 74,000 人、オープン：2016 年度 規模想定	概要（考え方等）	人口：約 88,000 人、オープン：2020 年度 規模想定	概要（考え方等）	人口：約 100,000 人、オープン：2018 年度 規模想定	概要（考え方等）	人口：約 147,000 人、オープン：－ 規模想定	概要（考え方等）
サブアリーナ	406 m <sup>2</sup>  ○コート ・バレーボール：1 面 ・バドミントン：2 面 (規定ラインは引かれていません)  ○その他 天井高：12.6m		約 790 m <sup>2</sup> (36m×22m)  ○コート ・バスケットボール：1 面分 ・バレーボール：6 人制、9 人制 1 面分 ・バドミントン：4 面分	○日常のスポーツ活動や練習会などで利用する。 ○メインアリーナを使用する大会時の練習場として使用する。 ○災害時は、避難しやすい構造とする。	約 1,020 m <sup>2</sup>  ○コート ・バスケットボール 1 面 (公式規格 28m×15m + バックヤード) 38m×27m  ○その他 ○天井高は、国際バレーボール連盟や日本バレーボール協会主催の試合の規格である「コートの表面から 12.5m 以上」を確保。	○大会時には選手のアップスペースとなるように、メインアリーナとの連携に配慮し、1 階に配置します。 ○選手控席はコートサイドに各 50 人分設けます。 ○遮光カーテン・ブラインド等により外からの光を遮断できるようにします。	約 1,680 m <sup>2</sup>  ○固定観客席：約 280 m <sup>2</sup> (約 560 席)  ○コート面積：約 1,400 m <sup>2</sup> 以下の競技の対応が可能 ・フットサル：1 面 ・バレーボール：2 面 ・バスケットボール：1 面 ・ハンドボール：1 面 ・ソフトテニス：1 面 ・卓球：8 面 ・バドミントン：8 面 ・空手・柔道・剣道：4 面 (サブアリーナの半分を武道利用に想定。畳等を仮設で設置し対応する) ※現総合体育館及びアンケートの要望を基準にメインアリーナで対応できていない面積相当を想定	以下のスペースの確保を検討 (サブアリーナと分担)  アンケート結果より ・卓球場：2 面 ・バドミントン：6 面 ・フットサルコート：2 面～4 面  現総合体育館と同等以上の施設規模を想定 卓球 26 台、 バドミントン 12 面、 バレーボール 4 面、 テニス 2 面、 バスケットボール 4 面、 ハンドボール 2 面
武道場等	—	—	約 581 m <sup>2</sup> (32m×18m)  ○使用用途 ・柔道：2 面分 ・剣道：2 面分 ・会議・研修会：100 名まで	○柔道、剣道、空手などの競技に対応できるスペースの確保を検討します。 ○災害時には、避難者の避難スペースとして活用します。	—	—	約 400 m <sup>2</sup>  以下の競技の対応が可能 ・空手：2 面 ・柔道：2 面 ・剣道：2 面 ※相撲の土俵については、屋外の屋根付きのスペースに検討	・武道のみができる環境 アンケート結果より以下のスペースの確保を検討 ・武道場 2 面 (剣道場、柔道場) ・柔道練習場：200 m <sup>2</sup> 以上 ・相撲場：1 面 (土俵) ・空手道場：4 面
トレーニング室	約 200 m <sup>2</sup> (図面計測面積)	○トレッドミルやエアロバイク等の有酸素系マシンのほか、筋力系マシンも数多く揃え、幅広い年齢層の体力に合わせたトレーニングに利用できます。	235 m <sup>2</sup>  ・有酸素マシン：23 台 ・筋力マシン：13 台 ・フリーウェイト	○利用者の健康体力の保持増進を目的とし、各種トレーニングマシンによる運動スペースとします。一部にストレッチ運動などが可能なスペースを確保します。	約 340 m <sup>2</sup> (27.5m×12.5m) 程度	○ストレッチエリア、ダンベル・バーベルエリア、筋トレマシンエリア、有酸素マシン(エアロバイクやランニングマシン)エリアで構成されるトレーニング室 ○トレーナーの事務カウンター	約 850 m <sup>2</sup>  現総合体育館のトレーニングルーム 約 213 m <sup>2</sup> の約 4 倍を想定	アンケート結果より トレーニングルーム： 現総合体育館の 3～4 倍

諸室	犬山市体育館 (エナジーサポートアリーナ)		袋井市総合体育館 (さわやかアリーナ)		江南市体育館 (KTX アリーナ)		各務原市新総合体育館	
	人口：約 74,000 人、オープン：2016 年度		人口：約 88,000 人、オープン：2020 年度		人口：約 100,000 人、オープン：2018 年度		人口：約 147,000 人、オープン：-	
	規模想定	概要 (考え方等)	規模想定	概要 (考え方等)	規模想定	概要 (考え方等)	規模想定	概要 (考え方等)
ランニングコース及びウォーキングコース	約 420 m <sup>2</sup> (図面計測面積)		長さ 170m ・2 階観覧席周囲	○ウォーミングアップやクールダウンのための機能として、館内へ天候に関係なく使えるランニングコースやウォーキングコースの整備を検討するとともに、屋外にもランニングコースの整備を検討します。	—	—	約 630 m <sup>2</sup> ランニングコース 1.2m幅×2 レーン 1 周約 250m アリーナ (38m×75m) を囲う客席 (奥行約 5m を想定) の外周に設置を想定 (想定総延長 256～265.6m) ※延長は客席の配置等により変動する 雨天練習場として想定	ランニング、ウォーキング場 ・雨天利用可能な室内に整備
多目的運動室	約 340 m <sup>2</sup>	音響設備と壁面 3 面にミラーを設置し、スタジオプログラムやダンス、エアロビクス、軽運動、会議・研修会など、2 分割での利用もできます。	約 150 m <sup>2</sup> ○対応用途 ダンス、エアロビクス、軽運動、会議・研修会 (100 名まで) 等	※大会議室と兼用 ・ミラー設備などにより、ダンスやエアロビクスなど様々なスポーツニーズに対応した施設とします。 ・スポーツ指導者やスポーツボランティアの研修会や講習会、さらに文化活動の場としても広範囲に利用することのできる施設とします。 ・災害時には、妊婦や幼児を抱える母親など、災害弱者が避難できるスペースとしての機能を検討します。	フィットネススタジオ 約 280 m <sup>2</sup> (22.5m×12.5m) 程度  レクリエーション室 約 90 m <sup>2</sup>	○ヨガ、太極拳、エアロビクス、ZUMBA などのアクティビティのできる防音設備、音響設備のあるスタジオ (実面積として 250 m <sup>2</sup> 程度あれば、70 人定員可)  ○卓球台が 4 台程度おける部屋	約 280 m <sup>2</sup> 70 人程度収容可能なフィットネススタジオを参考に想定	トランポリンや体操、ダンスやボルダリングを含む複数の種目及び音楽スタジオ等にも対応できるスペースを有するスペースとして想定
キッズルーム	約 50 m <sup>2</sup>  約 114 m <sup>2</sup> (図面計測面積)	幼児中心で保護者と一緒に軽い運動が出来ます (※有料) ＜キッズアスレチック＞ 屋外スペースには、幼児向けのアスレチック器具も設置しています。雨天使用禁止。外靴着用にて使用可能	約 140 m <sup>2</sup>	○幼児を持つ親のスポーツ活動を支援するための施設としての役割が主となりますが、幼児体操などの運動の場としても利用が可能です。	約 75 m <sup>2</sup>	○託児や幼児の遊びや親子体操ができるスペースを専用室として設けることを検討	約 100 m <sup>2</sup> 事例を参考に想定	幼児の遊びや親子での活動を支援する場として想定

<参考>第75回国民体育大会 競技施設の手引き 鹿児島県準備委員会（2020年開催予定 延期）

○バレーボール



ウォームアップエリアを5m×5mと想定した場合、約1,360 m<sup>2</sup>



## ○体操

基準の主な内容	
規定の各器具を設置することができる体育館は次のとおり。	
【体操競技】（日本体操協会平成18年8月発行規定集より）	
1) 競技場の広さ	2,000㎡以上
2) 競技場の天井高さ	12m以上
【新体操】（日本体操協会平成18年8月発行規定集より）	
1) 競技場の広さ	2,000㎡以上
2) 競技場の天井高さ	12m以上
3) 演技面の広さ	内側13m×13m
	その周りには最低1mの安全地帯を設ける。
	なお、演技台を設ける場合には最低2mとする。
※ ただし、地元の保有施設がこの限りでない場合には、別途検討、調整を図る。	
〔(財)日本体操協会「国民体育大会体操競技の会期及び施設、器具等のガイドライン」から抜粋〕	

10%程度の余白を想定し、約2,200㎡と想定

○バスケットボール



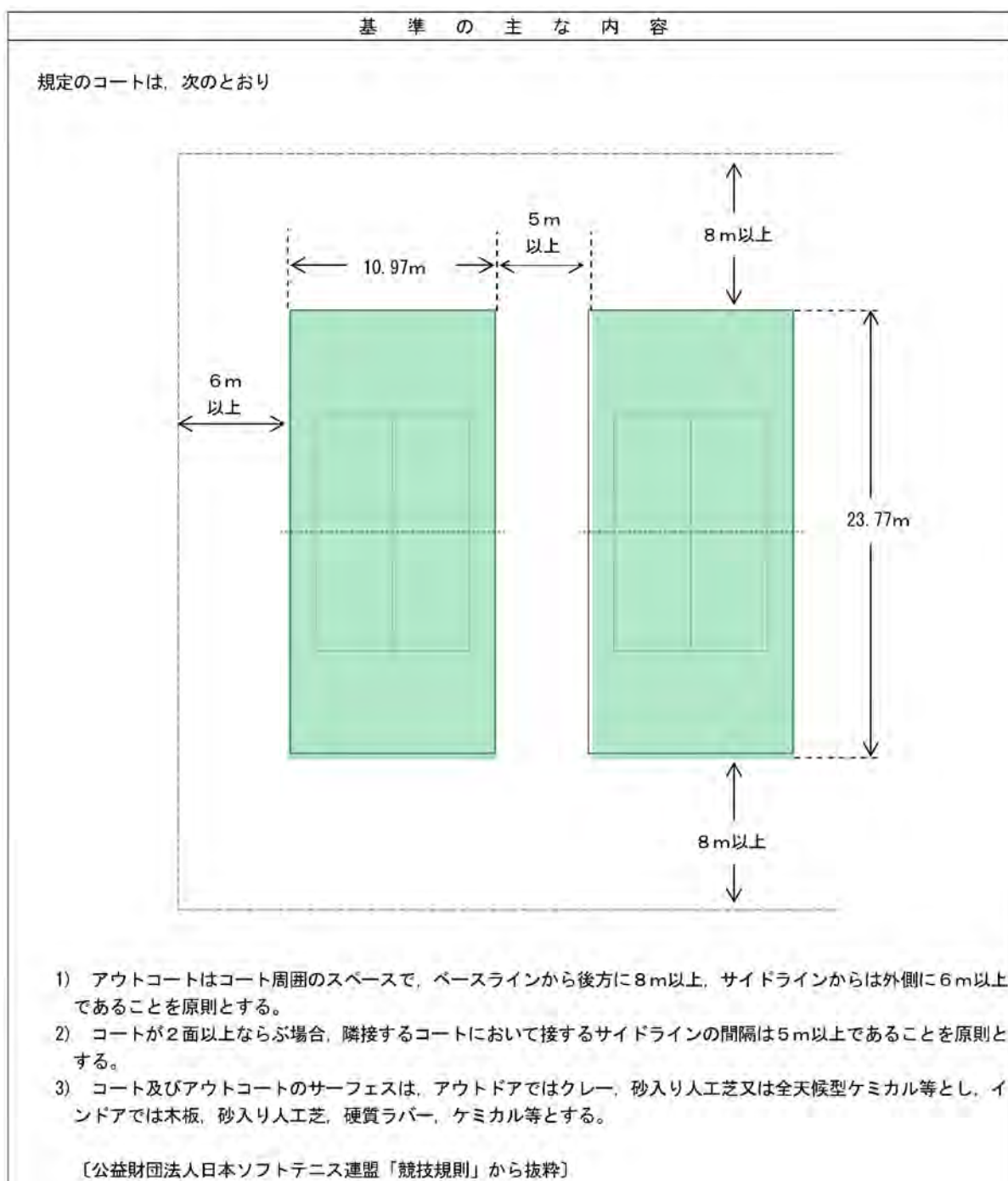
コートの四方境界から障害物までの距離が5m以上と想定した場合、約950㎡

## ○ハンドボール



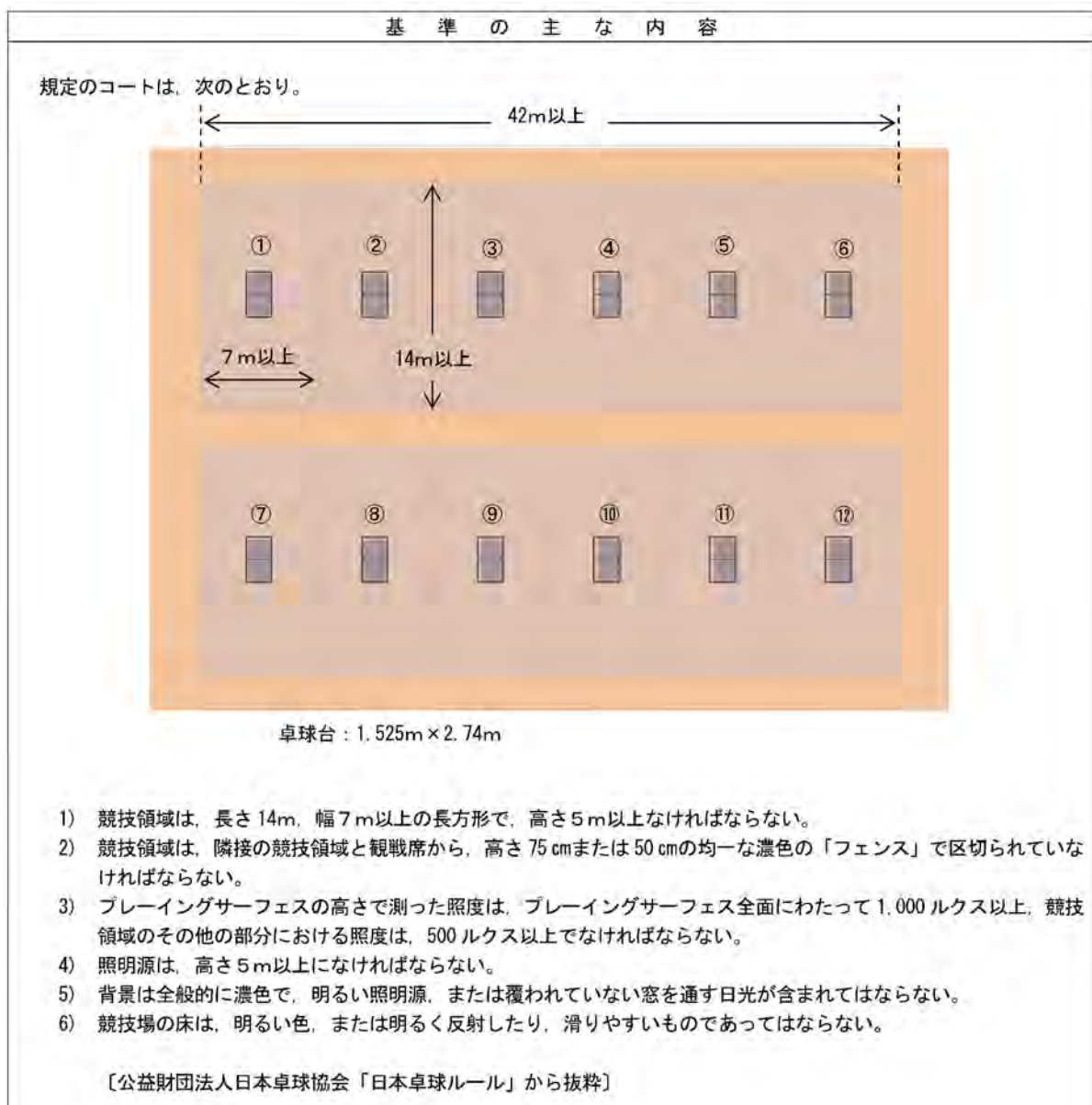
本部席、オフィシャル席及びベンチをそれぞれ2mと想定した場合、約1,240㎡

○ソフトテニス



約 1,550 m<sup>2</sup>

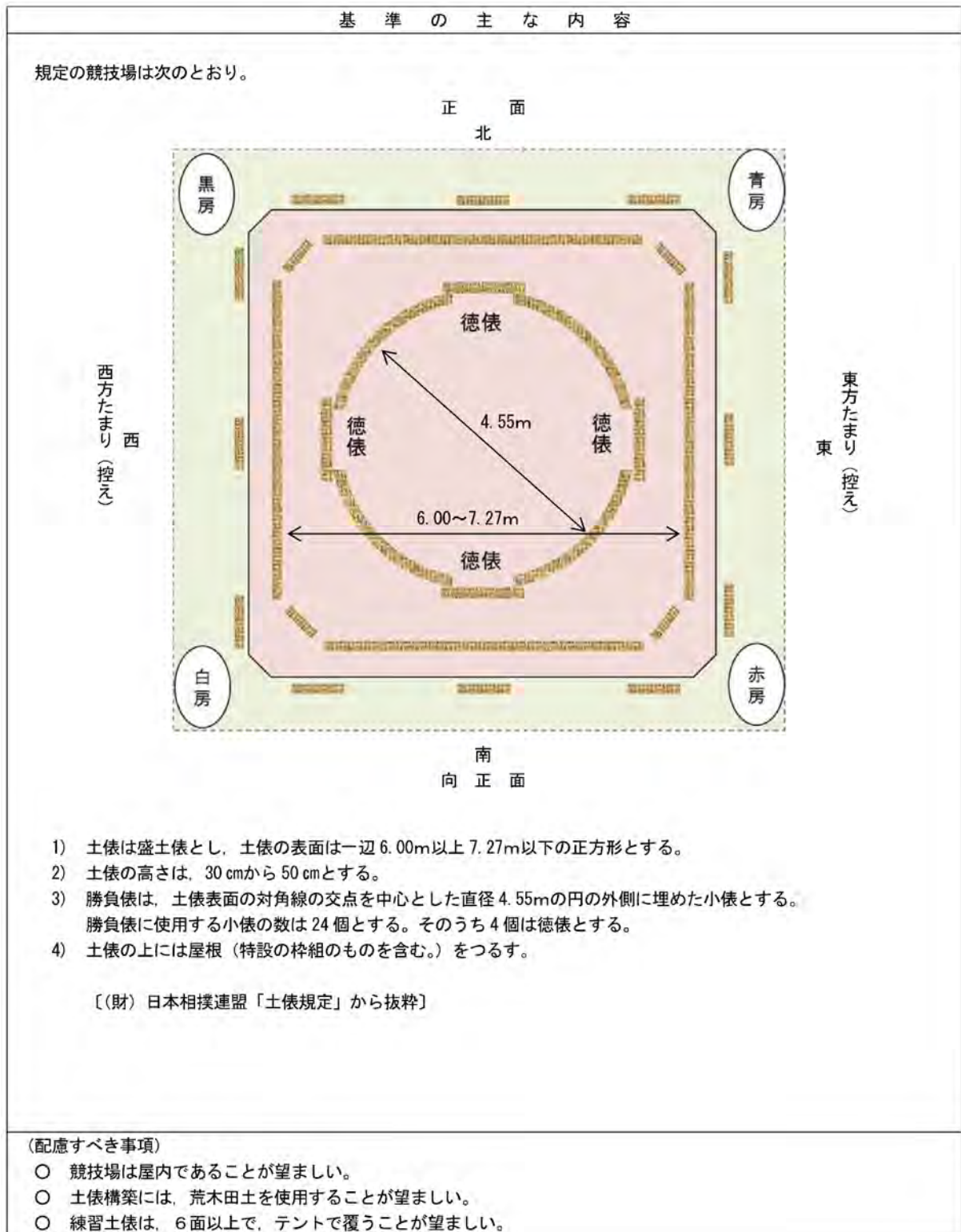
## ○卓球



通路及び協議領域の両端にそれぞれ3.5mを想定した場合、約1,890㎡

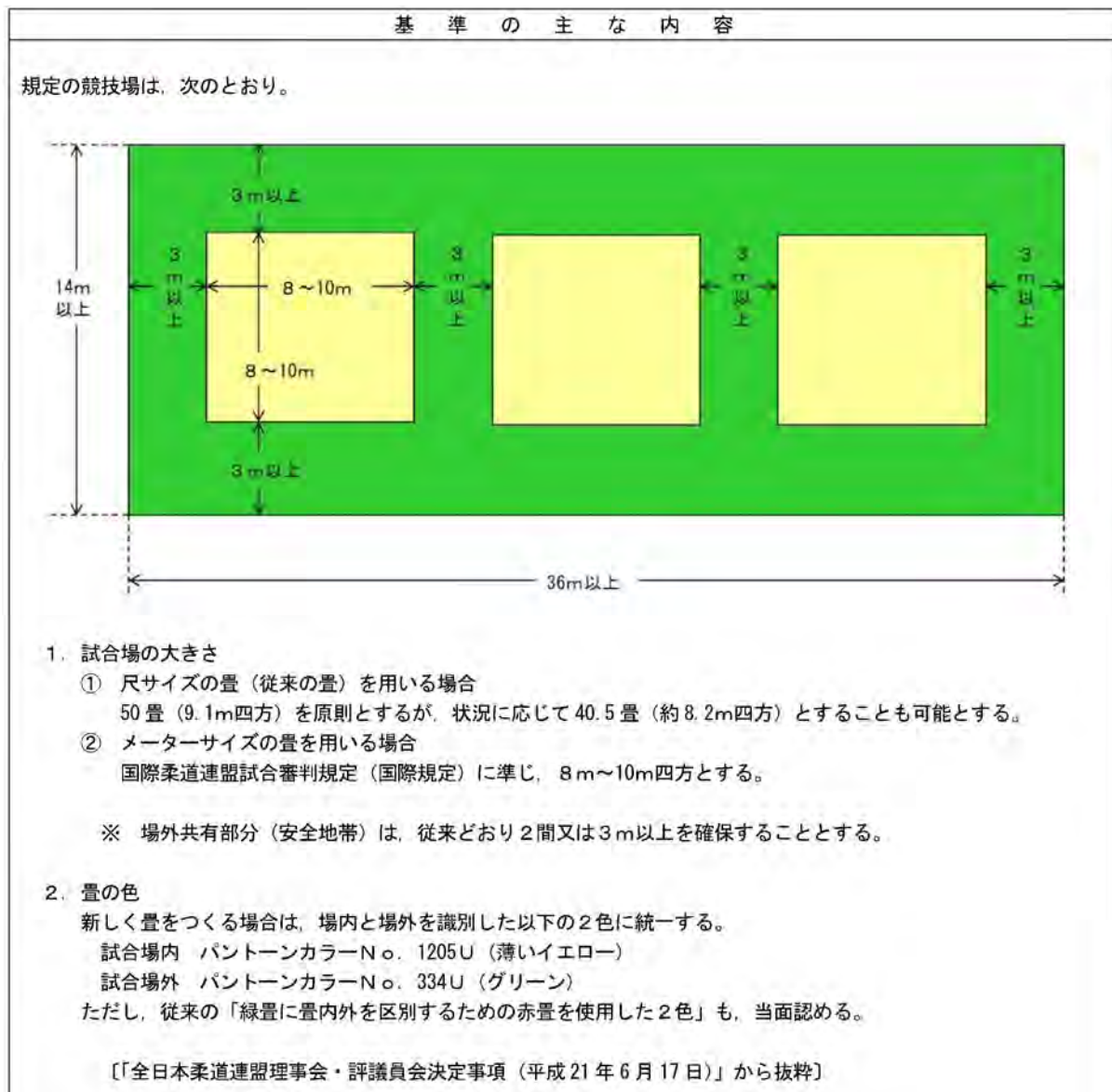


○相撲



一辺 7m の正方形を想定した場合、約 49 m<sup>2</sup>

## ○柔道



3面で約510㎡

○バドミントン

基準の主な内容

規定のコートは次のとおり。

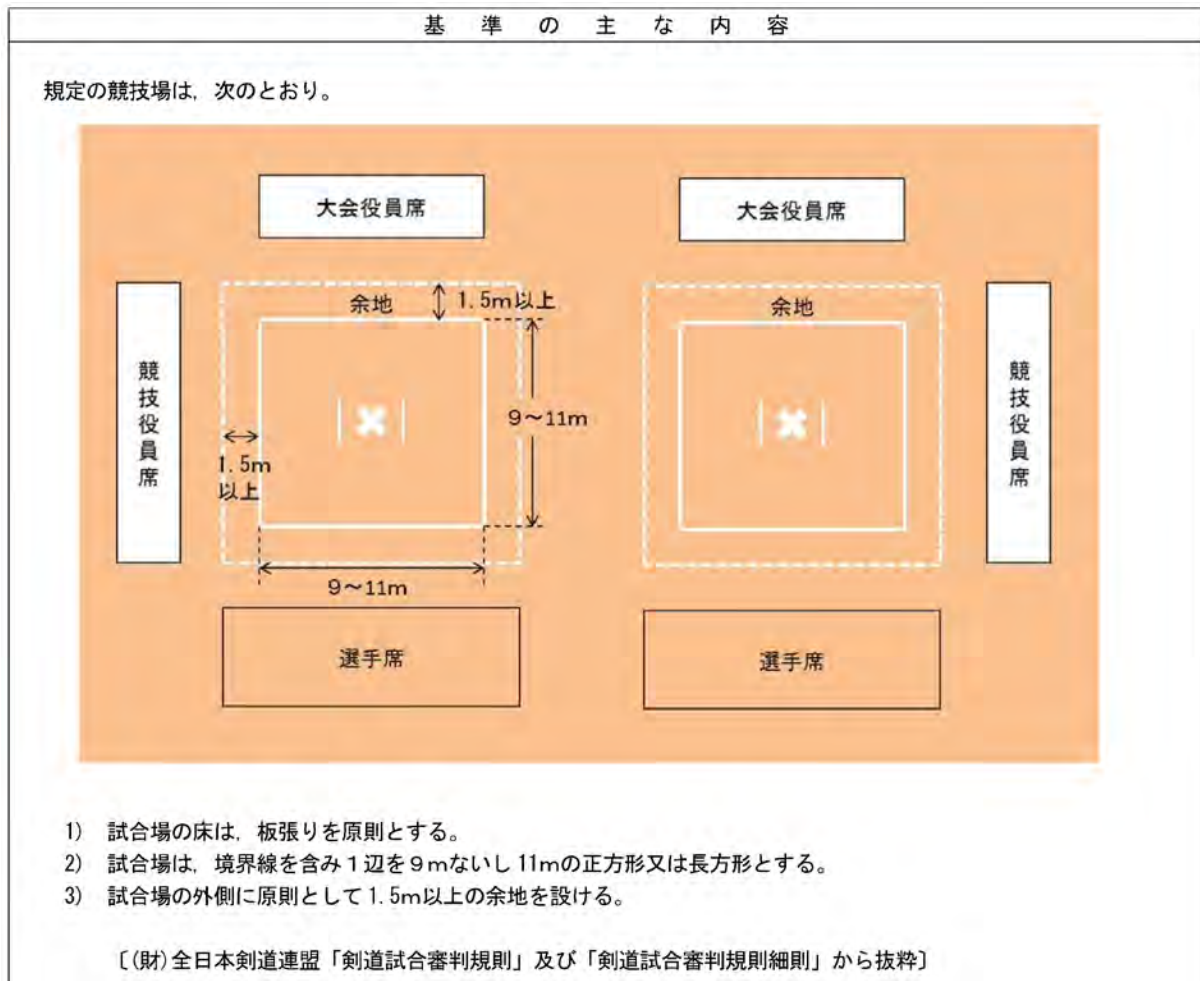
- 1) 大会に使用する会場は、屋内で競技中は風を遮断しなければならない。
- 2) 天井の高さは、コート面より12m以上とする。
- 3) 競技区域は、コート外側四周にそれぞれ2m以上の余裕がなければならない。また、1会場に2面以上のコートを設置する場合にも隣接するコートとの間隔は2m以上(※)とする。  
 ※ 隣接する競技区域との間隔は、2m以上あることが望ましいが、確保できない場合は、プレーに支障なく行われるように運営する。
- 4) 会場の照度は、各コートともネットの中央上縁において1,200ルクス以上(※)とする。  
 ※ 照明が1,200ルクス未満であった場合は、会場ルールを定めて運営する。
- 5) 照明は、コートの真上では遮光されていなければならないし、いかなる発光体もあってはならない。また、コートのバックバウンダリーライン上のいかなる位置から、反対側のバックバウンダリー上のいかなる位置を見通しても、その延長線上はすべて遮光されていなければならないし、いかなる発光体もあってはならない。
- 6) プレーヤー及び観客などに試合の経過及びスコアが明確にわかるように、得点表示装置を置かなければならない。

〔公益財団法人日本バドミントン協会「競技規則」及び「大会運営規程」から抜粋〕

(配慮すべき事項)  
 ○ コートは、全面にコートマットを使用することが望ましい。

約4面で約600㎡

## ○剣道



選手席等を除き競技領域のみで1面約200 m<sup>2</sup>



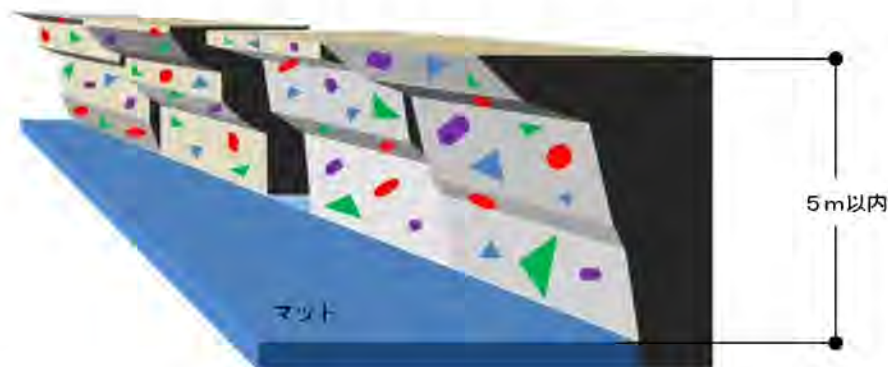
○山岳（リード・ボルダリング）

基準の主な内容	
<p>競技場は、基本的には次のとおり。</p>	
<p>1. リード競技</p>	
<p>1) ウォールは以下の仕様による。</p>	
<p>① ウォールは、ルートの長さで15m以上が設定できるもの、高さは12m以上を必要とする。</p>	
<p>② ウォールの幅は、3m以上とする。</p>	
<p>③ ウォール数は、2面とし、同形状のものとする。</p>	
<p>④ ウォールの傾斜は、90度以上で角度が変えられるものとする。</p>	
<p>⑤ ウォールのパネルは、交換できるものとする。</p>	
<p>⑥ ウォールの設置場所が屋外の場合は雨天対策を施すものとする。</p>	
<p>⑦ ウォールの構造上あるいは立地上、オンサイト方式に抵触する可能性がある場合、ルート・セッターが設定したルートを隠すことができるカーテン灯の装置を施すものとする。</p>	
<p>⑧ ウォール設置場所が、室内の場合は、空調設置等で温度変化が少なくなるように留意する。</p>	
<p>2) アイソレーション・ゾーンは、以下の仕様による。</p>	
<p>① 原則として当日競技をする選手・監督を収容するスペースを有しなければならない。また、できるだけウォールに隣接して設置されることが望ましい。</p>	
<p>② ウォームアップ用のウォール（原則として高さ3m、幅5m以上）を2面以上設けなければならない。</p>	
<p>3) ウォールに隣接して、ルートが見えない場所にコール・ゾーン（原則として競技者8名以上を収容できる場所）を設置しなければならない。また、競技者をアイソレーション・ゾーンから輸送するのに時間がかかる場合は、簡単なウォームアップ用ウォールを用意しなければならない。</p>	
<p>4) 審判席は、ルートを見渡せる正面及び側面の位置に設置しなければならない。</p>	
<p>5) 審判用器具としてビデオカメラ、モニターテレビ、ストップウォッチ及び観客用大型時計（モニター）を、ウォール面毎に設置する。</p>	
<p>6) その他のウォール及び審判に係る施設、器具の詳細は、国体山岳競技運営の手引きによる。</p>	
<p>ルートの長さは15m以上とする</p>	

## 基準の主な内容

## 2. ボルダリング競技

- 1) ウォールは、以下の仕様による。
  - ① ウォールの高さは、マット面から5メートル以内とする。
  - ② ウォールの数は、1基に2ルート以上とれる仕様のもので合計2基とする。
  - ③ ウォールの壁面積は、1基あたり60㎡とする。
  - ④ 観客席から見やすいようにウォールは壇上に設置されなければならない。
  - ⑤ ウォール2基は、お互いのルート（プロブレム）が見えないように遮蔽などの対策を施すこと。
  - ⑥ ウォールの傾斜は90度以上とする。
  - ⑦ ウォールのパネルは、交換できなくてもよいが、立体的な構造が望ましい。
  - ⑧ ウォール2基の間には、選手の休憩場所を設置し、休憩場所から競技が見えないようにすること。
  - ⑨ ウォールの設置場所が室外の場合は、雨天対策を施すものとする。
  - ⑩ 必要に応じて、ルート・セッターが設定したルートを隠すことができるカーテン等の装置を施すものとする。
  - ⑪ 安全対策のため、ウォールの下には壁上部から選手が墜落した場合にも十分な安全が確保できるようなマットを設置するものとする。
- 2) アイソレーション・ゾーンは以下の仕様による。
  - ① アイソレーション・ゾーンは、原則として当日競技をする選手・監督を収容するスペースを有しなければならない。また、できるだけウォールに隣接して設置することが望ましい。
  - ② アイソレーション・ゾーンには、ウォームアップ用のウォール（原則として高さ3m、幅5m以上）を2面以上設けなければならない。
- 3) ウォールに隣接して、ルートが見えない場所にコール・ゾーン（原則として競技者8名以上を収容できる場所）を設置しなければならない。また、競技者をアイソレーション・ゾーンから輸送するのに時間がかかる場合は、簡単なウォームアップ用ウォールを用意しなければならない。
- 4) 審判席は、ルートを見渡せる正面及び側面の位置に設置しなければならない。
- 5) 審判用器具としてビデオカメラ、モニターテレビ、ストップウォッチ及び観客・選手用大型時計（モニター）を設置する。
- 6) 競技時間ごとに鳴るブザーを設置する。
- 7) その他のウォール及び審判に係る施設、器具の詳細は、国体山岳競技運営の手引きによる。

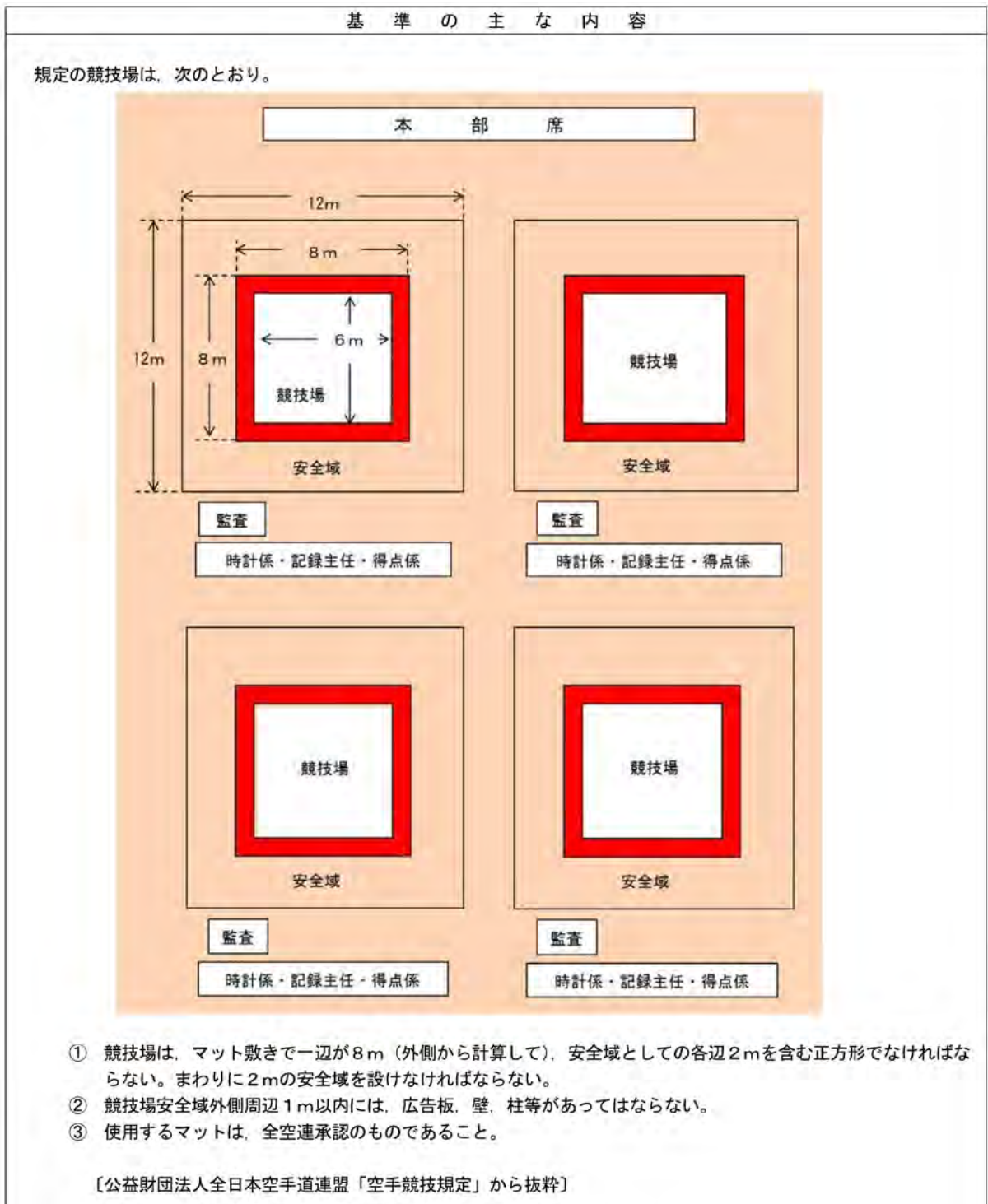


- リード競技場とボルダリング競技場間の移動時間は、原則として30分以内とする。

〔(社) 日本山岳協会「山岳競技施設認定規則」から抜粋〕

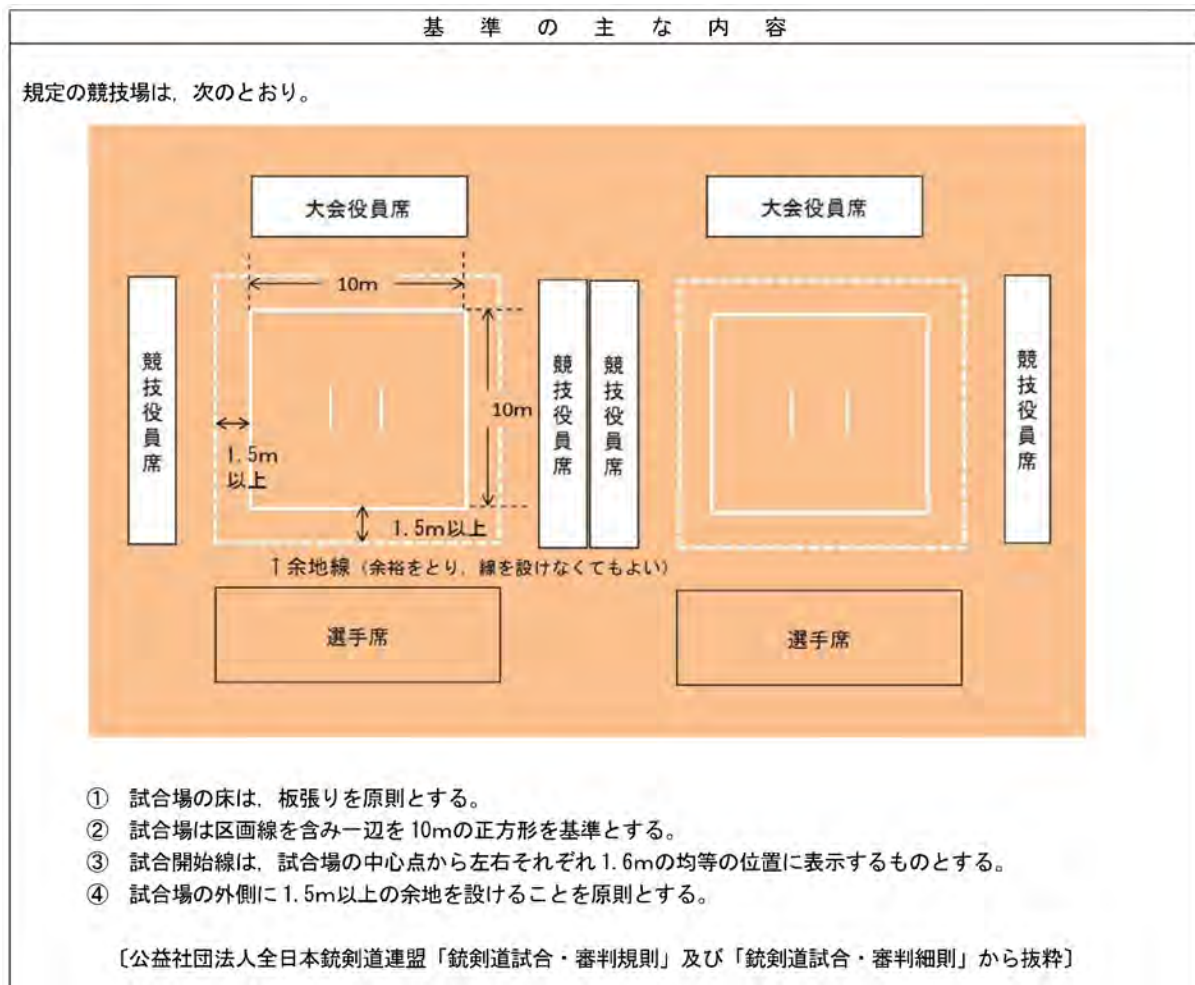


○空手道



安全域外側1mを含め、1面当たり約200㎡

## ○銃剣道



1面当たり約170 m<sup>2</sup>

<参考>フットサルコート規格 公益財団法人日本サッカー協会 フットサル競技規則

### 3 ピッチの大きさ

タッチラインの長さは、ゴールラインより長くなければならない。

すべてのラインは、幅 8 cm でなければならない。

国際試合以外の試合で用いるピッチの大きさは、次のとおりである。

長さ（タッチライン）	最小	25m
	最大	42m
幅（ゴールライン）	最小	16m
	最大	25m

国際試合に用いるピッチの大きさは、次のとおりである。

長さ（タッチライン）	最小	38m
	最大	42m
幅（ゴールライン）	最小	20m
	最大	25m

競技会規定は、上記の大きさの範囲内でゴールラインとタッチラインの長さを決定できる。



国際試合の最大値で想定した場合、約 1,050 m<sup>2</sup>